

内閣総理大臣

野田佳彦様

「国民が安全に暮らすための要請書」

九月二日に発足した新しい内閣の総理大臣として、連日ご奮闘のことと思います。私どもは、「熊本・原発を止めたい女たちの会」と申します。福島第一原発の事故以前から、反原発の気持ちを持っていたのに、それを広く周囲に伝えることなく過ごしてきたことを深く悔い、また反省し、六月にこの会を設立し活動しています。

この会の名において新総理に次のことを強く求めます。

- 一、点検中の原発を再稼働させないこと。
- 二、新規の原発を建設しないことを法制化し、すべての原発の廃炉にむけて計画をすすめること。
- 三、放射性物質の拡散を防ぐため、あらゆる努力をすること。とりわけ放射能で汚染された食べ物や瓦礫を全国各地で処理する計画を中止し、集中処理すること。

原発対応にあたって、是非想像してください。

住み慣れた土地を追われて苦しんでいる人々のことを、どこまでも飛散する放射能に不安を抱く人々のことを、

いつ事故が起きるかと恐れおののいている原発隣接地域の人々のことを、もし、新たにどこかの原発で深刻な事故が起きたときのことを。

また、政治家として、一握りの財界人や官僚、御用学者の言いなりにならず、常につましく暮らす人の側に立って下さい。それこそが民主党のいう「国民のくらし第一」ではないでしょうか。

批判にさらされた菅直人前総理でしたが、自民党政権下ではあり得なかった浜岡原発休止など、脱原発の方向を示されたことには、多くの人々が賛同しました。

そして今、八割の人が脱原発を志向しています。原発なしでは電気が足りないという人もいますが、これ以上人命や自然を犠牲にすべきではありません。足りる範囲で暮らせばいいのです。

電力不足というのは、もともと一部の人が原発推進のために言っているものであり、現に、この夏の猛暑も私たちは乗り切ることができました。

今や、原発を存続させてもいい理由は何ひとつありません。金のばらまき、事故隠し、やらせメールの画策、安全神話のでっちあげ…等などの不正と差別構造の上に作られた原発をなくし、心豊かに生きていきたいと願う私たちの願いを是非汲み取ってください。

二〇一一年九月一五日

熊本・原発を止めたい女たちの会

代表 永尾佳代

連絡先 熊本市長嶺町七丁目八一―一五

